

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-評価マニュアル(2016年4月改訂) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)プレザンス大曾根四丁目(2002) 新築工事	階数	地上10F
建設地	名古屋市北区大曾根四丁目2001番2	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域、緑化地域、駐車場整備地区、都市機能誘導区域内、居住誘導区域内	平均居住人員	196 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2025年4月 予定	評価の実施日	2025年1月20日
敷地面積	621 m ²	作成者	
建築面積	388 m ²	確認日	2025年1月20日
延床面積	3,185 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 84%
③上記②以外のオンサイト手法 84%
④上記③オフサイト手法 84%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.5

<h4>Q1 室内環境</h4> <p>Q1のスコア = 2.6</p>	<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>Q2のスコア = 2.5</p>	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <p>Q3のスコア = 2.2</p>
--------------------------------------	--	---

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.0

<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>LR1のスコア = 3.4</p>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>LR2のスコア = 2.8</p>	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>LR3のスコア = 2.8</p>
---	--	---

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
建設地の良好な住環境を保持しつつ、省エネ、防犯性能を確保した住宅の供給を目指す。	リサイクル製品の積極的な採用、廃棄物の削減	
Q1 室内環境 共同住宅における騒音環境に配慮	Q2 サービス性能 部屋・収納の広さの充実、	Q3 室外環境(敷地内) 道路面への植込みの充実、周辺建物との調和に配慮
LR1 エネルギー 断熱等級3程度	LR2 資源・マテリアル 節水型便器他	LR3 敷地外環境 自転車置場を80%設置

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

〔仮称〕プレサンス大曾根四丁目(2002) 新築工事

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
- 評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.3
LR1	エネルギー	3.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.6	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	2.2	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.3
2. 自然共生	評価点 = 1.3
3. 循環型社会	評価点 = 2.7

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。